

仙台市文化財調査報告書第354集

お　お　の　だ  
大　野　田　古　墳　群

－第17次発掘調査報告書－

2009年12月

仙台市教育委員会



## 序 文

日頃より、仙台市の文化財保護行政に対しまして多大なご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本書に収めた大野田古墳群は本市南部の太白区に所在し、地下鉄南北線の富沢駅の東側に広がる遺跡です。これまでの調査で、前方後円墳1基と円墳40基以上が発見され、5世紀後半から6世紀にかけての古墳群であったことが明らかになっています。

現在、この富沢駅周辺では都市圏南部の広域拠点である長町副都心に近接する地の利を生かし、良好な住環境を形成するための土地区画整理事業が推進されております。

今回の発掘調査は、この土地区画整理事業に関連した、障害児通園施設（仙台市たんぽぽホーム）の移転新築工事に伴うものです。

発掘調査に当たっては、関係機関と十分な事前協議を行った上で、記録保存を目的として実施致しました。本報告書が広く皆様に活用されることによってさらに地域に対する理解が深まり、それが郷土愛につながっていけば、文化財を活かした街づくりの源になっていくものと信じております。

最後になりましたが、発掘調査並びに本報告書刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

平成21年12月

仙台市教育委員会

教育長 荒井 崇

## 例　　言

1. 本書は、障害児通園施設（仙台市たんぽぽホーム）の移転新築工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の指導のもとに、株式会社玉川文化財研究所が行った。
3. 本書の作成及び編集は、平間亮輔（仙台市教育委員会文化財課）、追 和幸（株式会社玉川文化財研究所）が行った。
4. 本書の執筆は、平間亮輔の責任のもとに下記の通り行った。

第Ⅰ章第1節	.....	平間亮輔
第Ⅰ章第2節、第Ⅱ～VI章	.....	追 和幸
5. 調査と報告書作成にあたり、富沢駅周辺開発事務所ならびに大野田はぎの苑、サポートはぎのご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
6. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 土層注記に記載している土色は、「新版標準土色帖」（小山・竹原 1977）に基づいて認定した。
2. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1：25,000『仙台西南部・仙台東南部』の一部を縮小して使用している。周辺の遺跡では仙台市発行の都市計画基本図1：5,000を使用した。
3. 調査の際の平面座標基準は、日本測地系直角平面座標第X系を基にしている。
4. 本書に使用した挿図縮尺は以下の通りである。  
　　遺構平面図1/100、1/30、遺構断面図1/60、1/30、遺物の挿図・写真図版2/3、1/3
5. 挿図中のレベルは海拔標高を示す。
6. 遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下の略号を付している。  
　　A：縄文土器　C：非クロ土師器　K：石器
7. 本書で使用した遺構略号は以下の通りである。  
　　S D：溝跡　S X：性格不明遺構　P：ピット
8. 層位名は基本層位をローマ数字「I・II・III…」、遺構内堆積土層位を算用数字「1・2・3…」で表した。
9. 遺構および遺物観察表では（ ）は推定値、〈 〉は現存値を記した。
10. 新旧関係は各調査面で検出されたものを表記している。

## 目 次

序 文

例 言・凡 例

第 I 章 調査の概要 .....	1
第 1 節 調査に至る経緯 .....	1
第 2 節 調査要項 .....	1
第 II 章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	1
第 III 章 調査の方法と経過 .....	4
第 IV 章 基本層序 .....	5
第 V 章 検出遺構と出土遺物 .....	8
第 1 節 Ⅲ層上面検出遺構 .....	8
1. ピット .....	8
第 2 節 Ⅳ層上面検出遺構 .....	8
1. 小溝状遺構群 .....	8
第 3 節 Ⅴ層上面検出遺構 .....	11
1. 溝 跡 .....	11
2. 小溝状遺構群 .....	11
3. 性格不明遺構 .....	16
4. ピット .....	16
第 4 節 出土遺物 .....	21
第 VI 章 ま と め .....	23
写真図版 .....	27
報告書抄録 .....	卷末

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置	2	第2図 調査区の位置と周辺の遺跡	3
第3図 グリッド配置と周辺調査範囲図	4	第4図 調査区土層断面図（1）	6
第5図 調査区土層断面図（2）	7	第6図 III層上面・IV層上面遺構平面図	9
第7図 IV層上面小溝状遺構群断面図	10	第8図 V層上面遺構平面図	12
第9図 V層上面小溝状遺構群平面図（1）	13	第10図 V層上面小溝状遺構群平面図（2）	14
第11図 V層上面溝跡・小溝状遺構群断面図	15	第12図 V層上面性格不明遺構群平面・断面図	17
第13図 V層上面性格不明遺構・ピット平面図	18	第14図 出土遺物	22
第15図 近隣の成果との対応関係	24		

## 表目次

第1表 III層上面ピット観察表	8	第2表 IV層上面小溝状遺構群観察表	10
第3表 V層上面ピット観察表（1）	19	第4表 V層上面ピット観察表（2）	20
第5表 V層上面遺構観察表	21		

## 写真図版目次

写真図版1 全景写真（1）	29
写真図版2 全景写真（2）	30
写真図版3 全景写真（3）	31
写真図版4 全景写真（4）	32
写真図版5 溝跡	33
写真図版6 小溝状遺構群（1）	34
写真図版7 小溝状遺構群（2）	35
写真図版8 小溝状遺構群（3）・性格不明遺構（1）	36
写真図版9 性格不明遺構（2）	37
写真図版10 土層断面・出土遺物	38

## 第Ⅰ章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

今次調査は富沢駅周辺土地区画整理事業による障害児通園施設（仙台市たんぽぽホーム）の移転新築工事に伴うものである。移転予定地は大野田古墳群の中央部にあたり、建物の構造から地下の遺構に影響を及ぼすことが予想された。このため、仙台市教育委員会は仙台市健康福祉局障害者支援課と協議し、記録保存を図るために発掘調査を実施することになった。工事開始は平成21年7月の予定であるため、調査はそれ以前の5～6月にかけて実施することとした。

### 第2節 調査要項

1 遺跡名称	大野田古墳群（宮城県遺跡地名登録番号01361・仙台市文化財登録C-054）
2 所在地	宮城県仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業地内27街区5・6画地
3 調査原因	障害児通園施設（仙台市たんぽぽホーム）移転新築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
4 調査主体	仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
5 調査担当	調査係主査 荒井 格 調査係主査 平間 亮輔 主任調査員 追 和幸（株式会社玉川文化財研究所） 調査補助員 前川 昭彦（株式会社玉川文化財研究所）
6 調査期間	平成21年5月7日～平成21年7月3日
7 調査面積	305m <sup>2</sup>

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

大野田古墳群は仙台市南部の太白区大野田字宮・宮脇・竹松・千刈田・塙田・王ノ壇に所在し、その範囲は東西600m、南北430mに達する。今回の調査地点は大野田古墳群の北側中央部分にあたり、地下鉄南北線富沢駅の東約330mに位置する（第1図）。

仙台市の地形は、西側の丘陵地帯と東側の沖積平野に大きく分けられ、大野田古墳群は沖積平野にあり、名取川とその支流である広瀬川に挟まれた郡山低地の南部にあたる。大野田地区を含む富沢駅周辺の地域は名取川の左岸に位置し、南側を東流する名取川と北側を大きく曲流する荒川によって囲まれ、両河川の影響を強く受けている。このためこの地域には自然堤防および後背湿地の発達した複雑な微地形が形成されている。

大野田地区は西から東へ緩やかに傾斜する自然堤防上に立地し、標高11～12mを測る。名取川・荒川の治水事業が行われる前は、冠水の多い地域として知られていた。富沢駅周辺の地域では現在も土地区画整理事業が進行中であり、事業地内は山砂や砂礫による盛土がなされた造成地となって宅地化が急速に進みつつある。このためかつての田園風景や景観から大きく変貌をとげている。

周辺には、大野田地域の自然堤防上に縄文時代をはじめ各時代の遺跡が確認されている。縄文時代では、今回の調査地である大野田古墳群から後期中葉の土坑が検出されている。また、大野田古墳群の北東側に位置する大野田



第1図 遺跡の位置

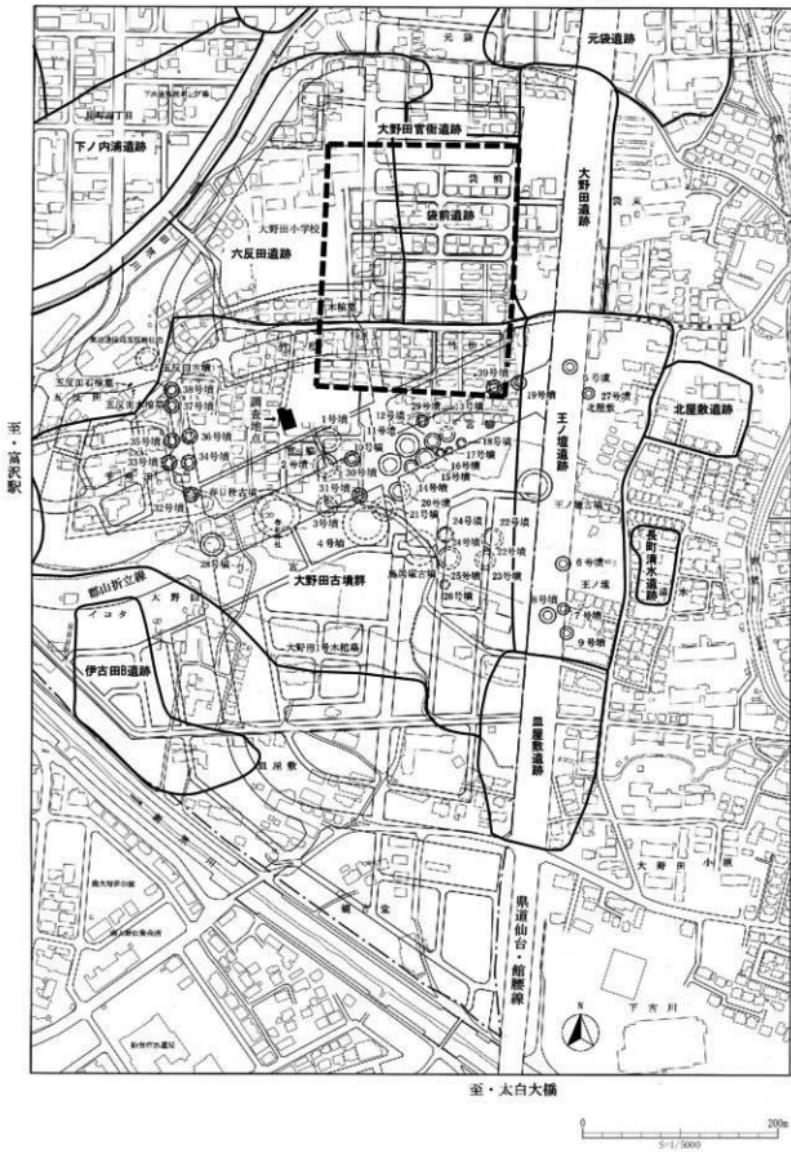
遺跡からは後期前半の環状集石群・配石遺構・埋設土器が検出され、多量の土器とともにハート型土偶を含め約300点程の土偶が出土している。東側の王ノ壇遺跡では、後期中葉～後半の環状配石群・竪穴遺構・土坑・埋設土器が検出され、南西側の伊古田遺跡では後期中葉の多量の土器・石器とともに土偶が出土している。北側に隣接する六反田遺跡では、後期初頭の集落跡が展開し、旧荒川を挟んだ対岸の下ノ内浦遺跡では縄文時代早期前葉の住居跡と落し穴が確認され、後期前半の墓域が検出されている。

弥生時代では、大野田地区の北側に位置する広大な後背湿地に富沢遺跡が立地し、弥生時代中期から重層的な水田跡が検出され、生産域を示す地域であったことが推定されている。

古墳時代では、中期後半になると郡山低地に古墳群が出現し、これらの古墳分布域の南側に立地する大野田古墳群は東西600m、南北430mの範囲に及ぶ。古墳群のほぼ中央域には西から市内最大級の円墳である春日社古墳をはじめ前方後円墳の島居塚古墳、円墳の王ノ壇古墳があり、周辺には中小規模の円墳が群集している。特に春日社古墳では平成19年度の調査により埋葬施設が2基発見され、第2主体部からは副葬品として矛や鉄鏃の金属製品とともに革盾が検出されたことでも著名である。一方集落については、これまでの発掘調査によって前期～中期の竪穴住居跡が大野田古墳群や伊古田遺跡、下ノ内遺跡で検出され、徐々に集落の状況が明らかとなりつつある。

古代では、郡山低地で集落が拡大し、大野田地区周辺にも住居跡や掘立柱建物跡が多数確認され、畑の耕作に関連すると考えられる小溝状遺構群が大規模に展開している。また、近年の調査によって大野田古墳群、六反田遺跡、袋前遺跡にまたがって規則的に配置された大型の掘立柱建物跡や建物跡を取り囲む大溝跡が検出されており、今年度行われた仙台市教育委員会の調査によって大溝跡の西側も発見された。これにより南北約259m、東西約196mの規模を測る大野田古墳の存在が明らかとなり、郡山遺跡のⅡ期官衙と関連するものと考えられている。

## 至・長町



第2図 調査区の位置と周辺の遺跡（仙台市文化財調査報告書第319集に加筆転載）

中世では、大野田地区で武士の屋敷が造営されるようになり、王ノ壇遺跡では方形区画を有する大溝跡や掘立柱建物址、井戸跡の他、火葬墓、土坑墓といった宗教関連遺構が確認されている。また、屋敷跡の西側に幹線道路（推定「奥大道」）が検出され、屋敷跡の枝道が確認されている。

### 第Ⅲ章 調査の方法と経過

今回の調査地点は土地区画整理事業に伴う造成地内にあり、調査区の西側には南北方向に現行道路が縱断していく。このため、調査は東側の工事区域（調査区東側）と西側の現行道路区域（調査区西側）の2ヶ所に分けて実施することとした。調査区の東側は以前に宮脇公園と駐車場として利用されていたが、調査前の現況では山砂等によつて0.8m程の盛り土がなされた更地となっていた。

本調査は仙台市たんばぽーと建設用地の建物範囲を対象に南北約24m、東西約14mの長方形の調査区を設定することとなった。グリッドの配置は5m毎に西から東へアルファベット、北から南へ算用数字を付して各座標交点の第一象限側をA-1、A-2グリッドと呼称した。なお、今回のグリッドの配置については、今次調査終了後に今回の調査区の西側に隣接して第18次調査が行われることとなっていたことから、両調査区域全体を網羅するよう設定を行った。このため第17次調査区域は北西隅を起点に西から東のJ～Oグリッド、北から南の5～10グリッドの範囲にある。また、今回調査区の北西A-1グリッド（X = -198420, Y = 3840）は、大野田古墳群を含めた



第3図 グリッド配置と周辺調査範囲図

富沢駅周辺遺跡の表記方法ではE40・S20である（第3図）。

調査は、重機による表土掘削を調査区東側から開始した。表土以下では調査区の全域で旧水田耕作土が確認され、調査区中央付近では公園遊具の基礎による擾乱も認められた。また、公園と駐車場の境には東西方向にブロック塀が築かれ、土中深くまで達していたことから、安全を考慮してこのブロック塀を撤去した。

表土剥ぎ終了後、人力による精査を行った結果、調査区北西側付近を除いて基本層II層がほぼ全域で確認された。その後調査は遺存するII層の掘り下げを行い、III層上面から遺構精査を開始して順次各層毎の記録作業を行うこととし、層位毎の調査が終了するごとに人力によって下層への掘り下げを行うことにした。

調査の結果、III層上面ではピット3個が検出されたが、ピットの堆積土はII層を主体とするものであり、規則的な配置は認められていないことが明らかとなった。次にIV層上面では小溝状遺構群1群が確認された。小溝状遺構群は北東から南西方向に列をなすが、いずれも浅く、2条の溝跡は途中で分断されていた。最後にV層上面では溝跡2条（SD1・2）、小溝状遺構群5群、性格不明遺構3基（SX1～3）、ピットなど最も多くの遺構が検出された。SD1溝跡の底面には溝掘削時の三日月状の工具痕も観察され、SD1・2溝跡が小溝状遺構群3・4を切り、SD1・2溝跡の方が新しいことも判明した。これらの遺構調査、記録作業を行いつつ、6月12日にはV層上面検出遺構を高所作業車により写真撮影を行い、6月16日に調査区東側の調査を完了した。

調査区西側については6月17日から調査を開始した。道路部分のアスファルト及び側溝を重機によって撤去し、その後に表土剥ぎを行った。表土以下では、調査区東側と同じく旧水田耕作土が確認され、南北方向に幅0.5m程の埋設管による擾乱が認められた。本調査区ではIV・V層上面で遺構が検出され、新たに溝跡1条（SD3）、小溝状遺構群2群、性格不明遺構1基（SX4）、ピットが確認された。調査はこれらの記録作業と写真撮影を行い、6月26日には仙台市教育委員会文化財課との現地調査終了立ち会いの後、6月29日から埋め戻し作業・撤収作業を行って7月3日にすべての作業を終了した。

現地での測量・実測図作成は基本的にトータルステーションによるが、土層断面図については手実測方式の実測方法を行った。なお、測量の際の座標数値は日本測地系第X系を基準としている。

## 第IV章 基本層序

今次調査地点は造成地になっており旧水田耕作土上部は0.8m程の山砂や砂礫によって覆われていた。基本土層では旧水田耕作土をI層とし、砂礫層である堆積層まで確認することができた。第4・5図は調査区の外周壁及び調査区中央の南北方向の土層断面図である。V層以下の状況は南壁の深掘り箇所M-10グリッドで壁面の観察を行った。遺構調査は、前述したようにIII層上面、IV層上面、V層上面で行っている。

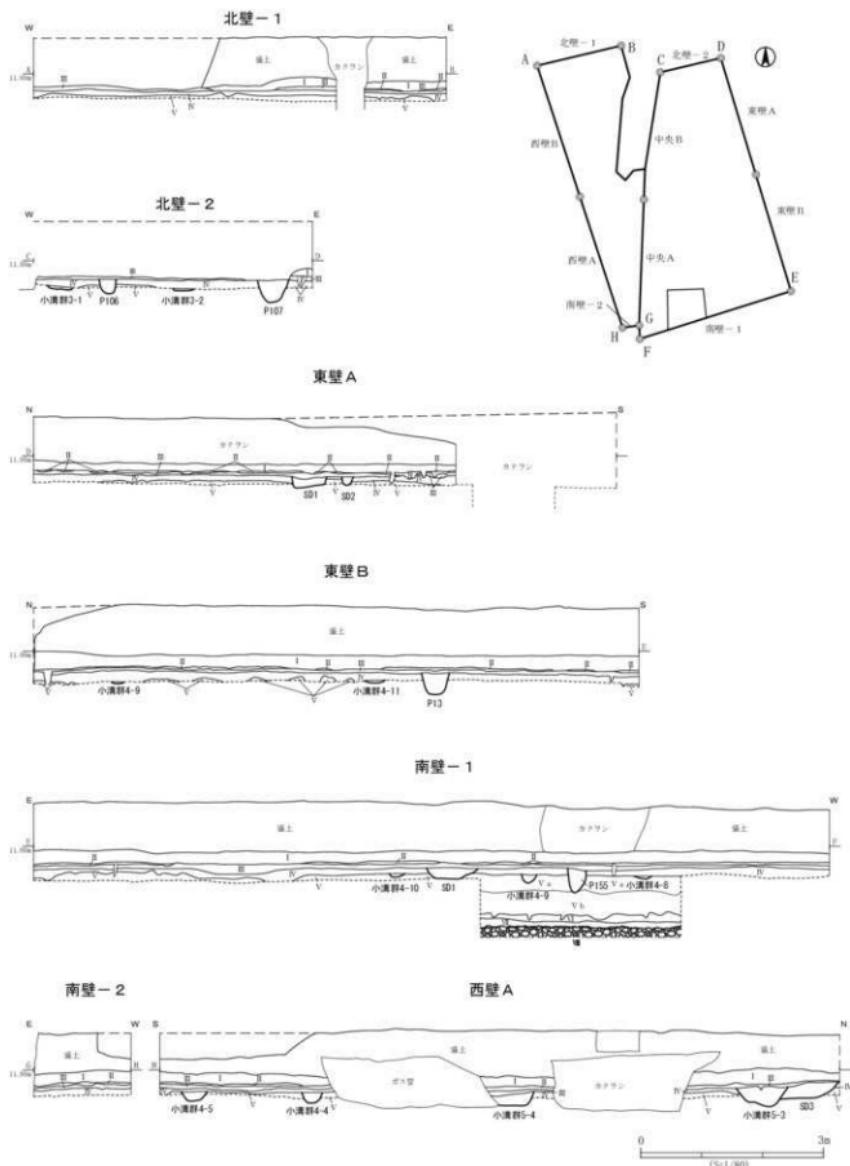
I層：灰色（5Y5/1）粘土質シルト。盛り土直下の旧水田耕作土。下部の田床と考えられる部分は酸化が進み橙色味を帯び硬化する部分も認められる。

II層：灰黄褐色（10YR4/2）粘土質シルト。マンガン粒を含む。旧水田耕作土の影響を受け、部分的に削平されても存在しない部分が認められる。

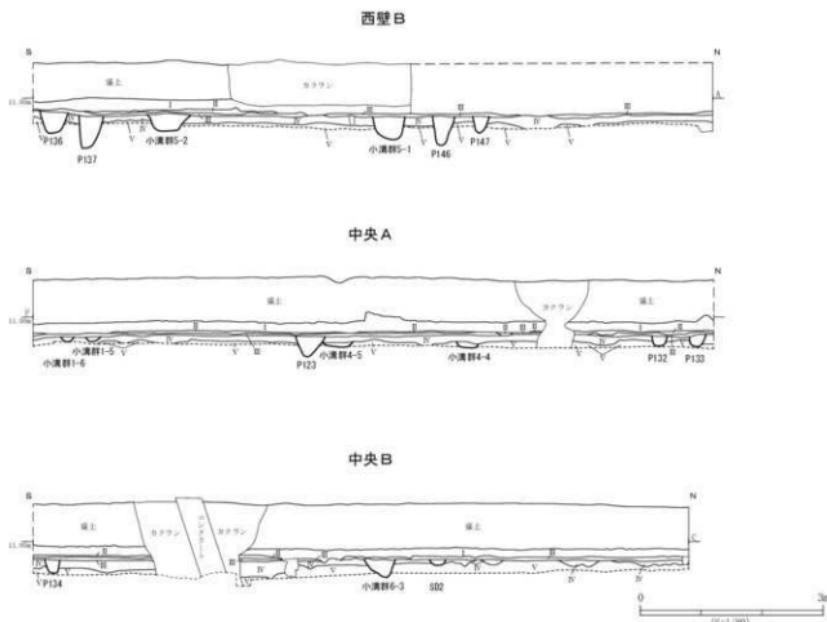
III層：黄褐色（10YR5/6）粘土質シルト。全域にわたり堆積している。周辺地域の調査では灰白色火山灰が観察されているが、本調査区では認められない。

IV層：暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト。マンガン・酸化鉄を含む。北側の一部を除いたほぼ全域に分布しており南側では堆積が厚く残る。土師器の破片が少量出土し、層下面には起伏が認められる。

V層：にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土質～砂質シルト。南壁の断面では土性によってa・bに細分が可能。Va層



第4図 調査区土層断面図（1）



第5図 調査区土層断面図（2）

は粘土質シルトで砂質味が弱く、V b 層は砂質シルトでシルト味が弱い。V層上面から縄文土器と石器が出土している。

VI層：暗褐色（10YR3/3）砂質シルト。有機質を含む砂質シルト層。

VII層：灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルト。

VIII層：砂疊層。径30～150mmの円疊を主体とした砂疊層であり、疊の隙間に粗砂が混在する。

## 第V章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 III層上面検出遺構

III層上面で検出された遺構はピット3個である。これらのピットは調査区南東側で確認され、建物跡や柱穴列などの存在を示す規則的な配置は認められない。

#### 1. ピット（第6図）

N-8グリッドでピット1・2の2個、M-8グリッドでピット3の1個の合計3個が検出された。ピットの平面形はピット1・3は円形、ピット2が楕円形を基調とするもので、断面形はU字形である。規模はピット1・3は径22~28cm、ピット2は長径24cm、短径16cmであり、深さ16~19cmを測る。

ピットの堆積土は、いずれもII層を主体とする粘土質シルトの単層であり、ピット1はIII層が混合している。これらのピットには柱痕跡は認められない。また、ピットから遺物は出土していない。

第1表 III層上面ピット観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)			堆積土	柱痕跡	出土遺物・新旧関係(古→新)
			長径	短径	深さ			
P1	N-8	円形	28	25	23	2.5Y4/3オーラーブ褐	粘土質シルト	II・III層の混合土。
P2	N-8	楕円形	24	16	16	10YR4/1褐色	粘土質シルト	II層主体。
P3	M-8	円形	23	22	19	10YR4/1褐色	粘土質シルト	II層主体。

### 第2節 IV層上面検出遺構

IV層上面で検出された遺構は、調査区東側から小溝状遺構群1の1群7条が検出された。また、調査区西側のV層上面で検出された小溝状遺構群の内、小溝状遺構群5・6については壁断面の観察によって掘り込み面がIV層上面であることが確認されたことから、今回の調査で確認された遺構は調査区東西を合わせて小溝状遺構群3群14条となる。これら的小溝状遺構群は、北東から南西方向に列をなす2群（小溝状遺構群1・5）とこれに直行するよう北西から南東方向に列をなす1群（小溝状遺構群6）が確認された。この内の小溝状遺構群1・5はさらに調査区の南西側に連続して広がる可能性がある。

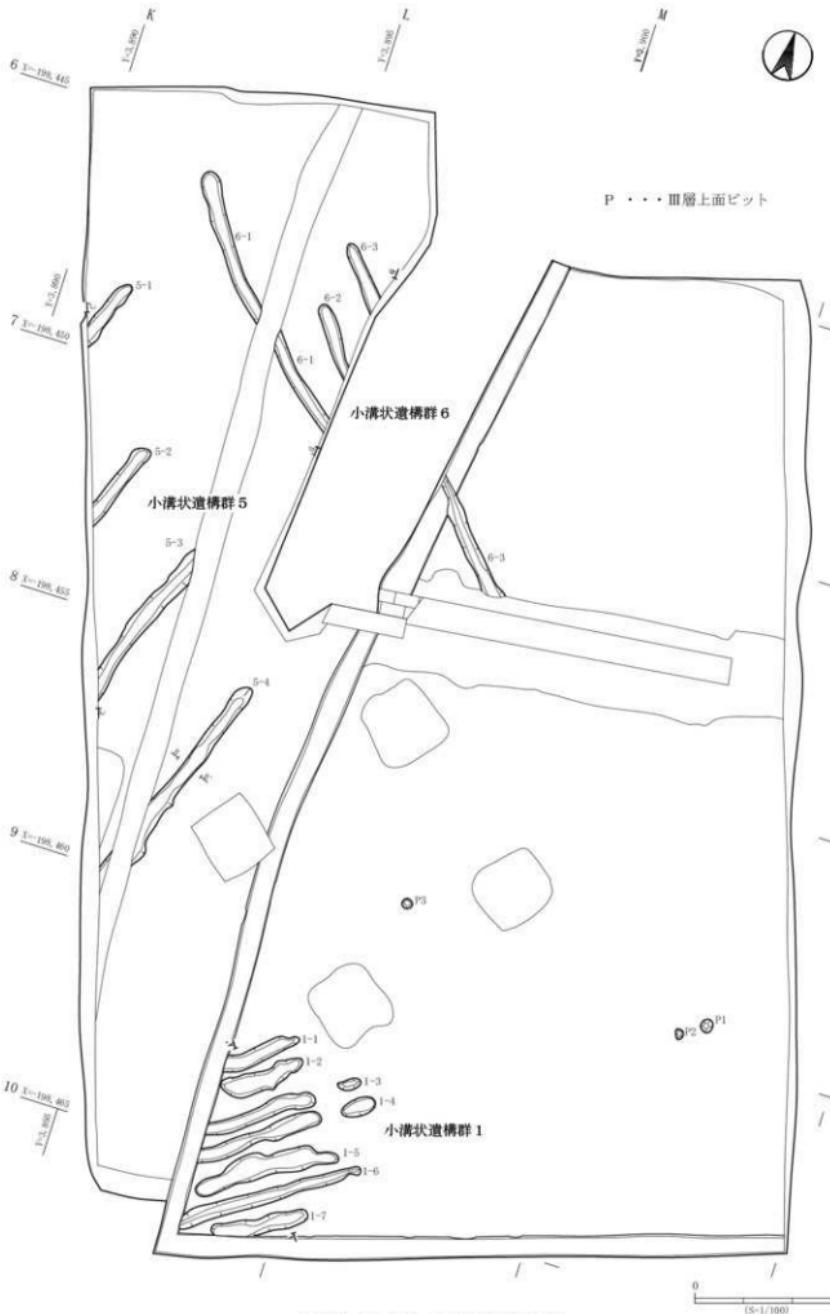
#### 1. 小溝状遺構群

##### 小溝状遺構群1（第6図、図版2-2）

L・M-9・10グリッドで検出された北東から南西方向の溝跡7条を小溝状遺構群1とした。方向はN-53°~57°-Eであり、平均はN-55°-Eとなる。1-3・4は途中で分断されるが同一のものと考えられ、調査区内での検出長は1.62~4.26mである。1-5・6は壁断面の観察から南西側の調査区外に伸びることが確認され、1-5は側溝付近で一度分断されるが、さらに南西側に伸びる可能性が高い。規模は上端幅12~53cm、下端幅5~39cm、深さ2~8cmを測り、断面形は浅いU字形及び皿形である。堆積土は単層で、色調はにぶい黄褐色(10YR4/3)であり、III層とIV層が混合する。小溝状遺構の間隔は心々距離で、0.46~0.65m、平均で0.56m程となる。遺物は出土していない。

##### 小溝状遺構群5（第6図、図版7-3）

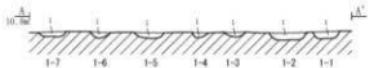
K-6~8、L-8グリッドで検出された北東から南西方向の溝跡4条を小溝状遺構群5とした。方向はN-19°~23°-Eであり、平均はN-21°-Eとなる。調査区内での検出長は1.34~3.63mで、壁断面の観察から溝跡4



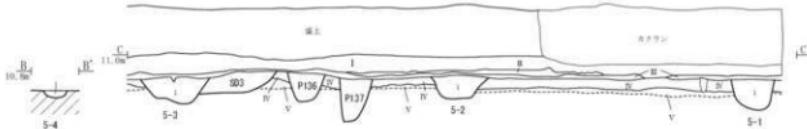
第6図 III層上面・IV層上面造構平面図

## 第2章 IV層上面検出遺構

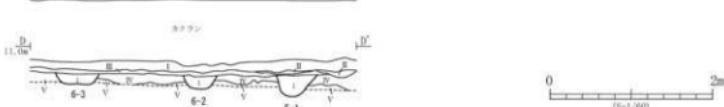
小溝状遺構群1



小溝状遺構群5



小溝状遺構群6



第7図 IV層上面小溝状遺構群断面図

第2表 IV層上面小溝状遺構群観察表

( ) 現存

遺構名	番号	規模(cm)			方向	グリッド	新旧関係(古→新)	出土遺物
		全長	上端幅	下端幅				
小溝状遺構群1	1 (162)	16 ~ 32	8 ~ 22	4 ~ 7	N-53 ~ E	L-9		
	2 (175)	28 ~ 43	14 ~ 31	4 ~ 7	N-54 ~ E	L-9		
	3 (330)	21 ~ 31	7 ~ 30	3 ~ 6	N-55 ~ E	L-M-9		
	4 (376)	20 ~ 36	6 ~ 22	4 ~ 6	N-55 ~ E	L-9~10, M-10		
	5 (366)	25 ~ 53	18 ~ 39	3 ~ 4	N-55 ~ E	L-9~10, M-10		
	6 (426)	12 ~ 34	5 ~ 14	2 ~ 4	N-56 ~ E	L-10, M-9		
小溝状遺構群2	7 (200)	31 ~ 36	10 ~ 22	4 ~ 8	N-57 ~ E	L-M-10		
	1 (134)	23 ~ 34	16 ~ 22	6 ~ 13	N-23 ~ E	K-6		
	2 (173)	28 ~ 35	16 ~ 23	6 ~ 10	N-21 ~ E	K-7		
小溝状遺構群5	3 (322)	27 ~ 40	18 ~ 21	12 ~ 24	N-19 ~ E	K-7~8		土師器片1点
	4 (363)	29 ~ 40	21 ~ 28	5 ~ 20	N-20 ~ E	K-L-8		
小溝状遺構群6	1 (575)	23 ~ 34	13 ~ 27	10 ~ 12	N-42 ~ W	K-6, L-6~7		
	2 (150)	21 ~ 30	12 ~ 19	7 ~ 10	N-35 ~ W	L-6		
	3 (783)	25 ~ 30	11 ~ 23	2 ~ 19	N-39 ~ W	L-6~7, M-7		土師器片1点

条は西側の調査区外に伸びる。規模は上端幅23~40cm、下端幅16~28cm、深さ6~24cmを測り、断面形はU字形である。堆積土は単層で、色調は暗褐色(10YR4/3)であり、IV層を主体として斑文状のV層を多量に含む。小溝状遺構の間隔は心々距離で、2.20~2.67m、平均で2.43mとなる。遺物は5-3から土師器甕の小片が1点出土したが、図示できるものではなかった。

### 小溝状遺構群6 (第6図、図版8-1・2)

K・L-6、L・M-7グリッドで検出された北西から南東方向の溝跡3条を小溝状遺構群6とした。方向はN-35~42°-Wであり、平均はN-38.5°-Wとなる。調査区内での検出長は1.50~7.83mで、断面の観察から6-1・2はL-6・7グリッド付近で途切れ、6-3はM-7グリッドの擾乱付近で途切れるものと考えられる。規模は上端幅21~34cm、下端幅11~27cm、深さ2~19cmを測り、断面形はU字形である。堆積土は単層で、色調

はにぶい黄褐色（10YR4/3）であり、IV層とV層が混合する。小溝状遺構の間隔は心々距離で、1.09～1.11m、平均で1.10mとなる。遺物は6-3から土器部高台付皿が1点出土し、第14図2に図示した。

### 第3節 V層上面検出遺構

V層上面で検出された遺構は溝跡3条、小溝状遺構群3群15条、性格不明遺構4基、ピット152個である。調査時にはこれらの遺構以外に小溝状遺構群5・6がV層上面を確認面として調査されたが、IV層上面検出遺構の項で説明したように壁断面の観察によって掘り込み面がIV層上面であることが確認されたことから、V層上面検出遺構からは除外している。また、小溝状遺構群についてはその切り合い関係から新旧に分けた平面図を図示した。以下、各遺構種別毎に記述する。

#### 1. 溝 跡

##### SD 1溝跡（第8図、図版5-1、6-2）

M-7~10、N-6~8グリッドで検出した。方向はN-8°グリッド付近で幾分蛇行しているが、南北の両端の心々を結ぶとN-6°-Eを指す。新旧関係は、小溝状遺構群4-8・9、小溝状遺構群3-2、SD 2を切り、ピットに切られる。調査区内の検出長は16.1mであり、壁断面の観察から調査区外へと更に伸びる。規模は上端幅35～55cm、下端幅19～38cm、深さ5～11cmを測る。断面形は浅いU字形である。底面には凹凸があり、溝掘削時の三日月状の工具痕と推定される掘り込みが認められた。堆積土は単層で、色調は暗褐色（10YR3/3）であり、IV層を主体とする。遺物は出土していない。

##### SD 2溝跡（第8図、図版5-2）

L-N-6グリッドで検出した。方向はN-88°-Wである。新旧関係は、小溝状遺構群4-2、小溝状遺構群3-1・2を切り、SD 1、ピットに切られる。調査区内の検出長は6.7mであり、壁断面の観察から東側は調査区外へと伸び、西側はL-6グリッド付近で途切れ可能性がある。規模は上端幅13～21cm、下端幅4～12cm、深さ3～5cmを測り、断面形は浅いU字形である。堆積土は単層で、色調はにぶい黄褐色（10YR4/3）であり、IV層を主体としてV層を斑文状に少量含む。遺物は出土していない。

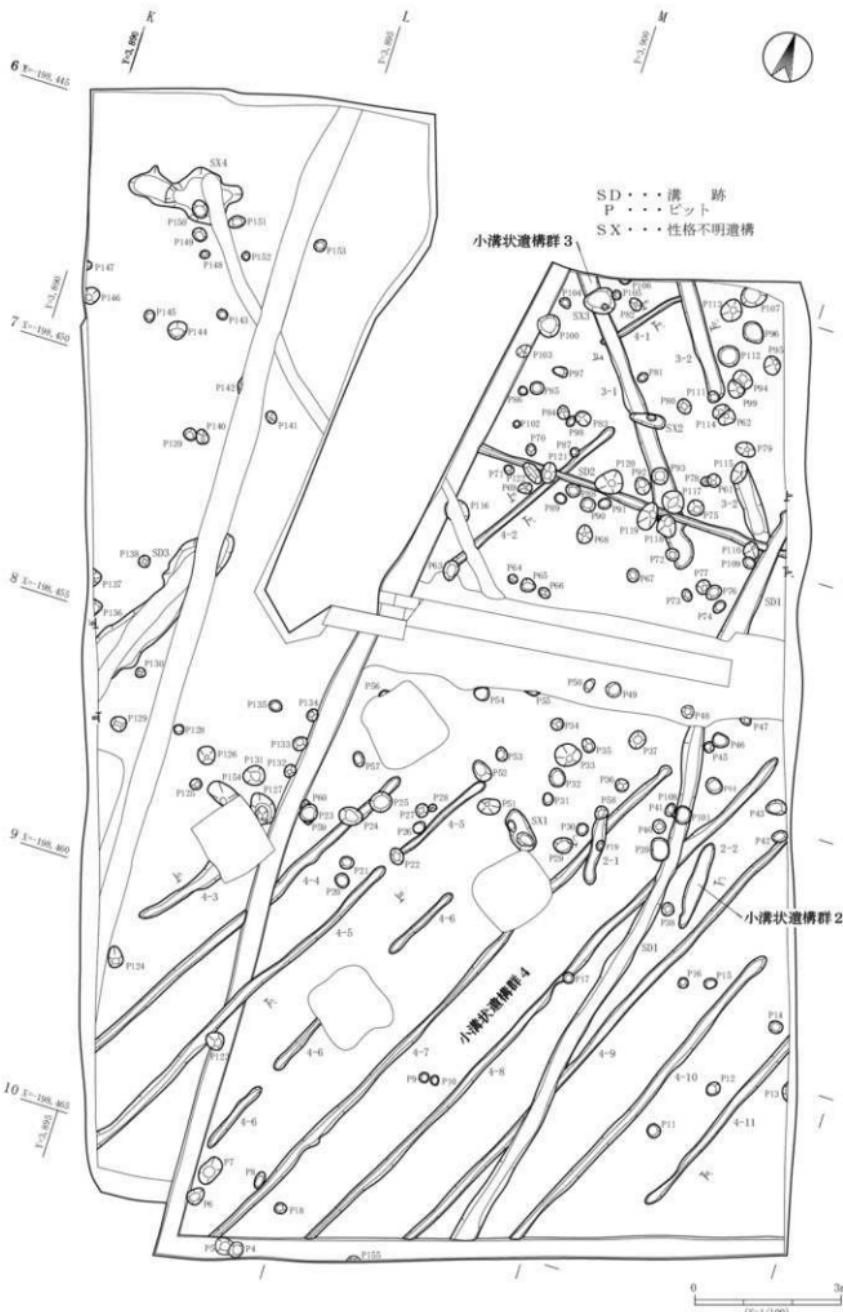
##### SD 3溝跡（第8図）

K-7・8、L-7グリッドで検出した。方向はN-28°-Eである。溝跡はIV層上面遺構小溝状遺構群5-3に切られる。調査区内の検出長は3.9mであり、壁断面の観察から南西側へ更に伸びる。規模は上端幅73～98cm、下端幅67～79cm、深さ4～6cmを測り、断面形は浅いU字形である。堆積土は単層で、色調はにぶい黄褐色（10YR4/3）であり、IV層を主体としてV層を斑文状に少量含む。遺物は出土していない。

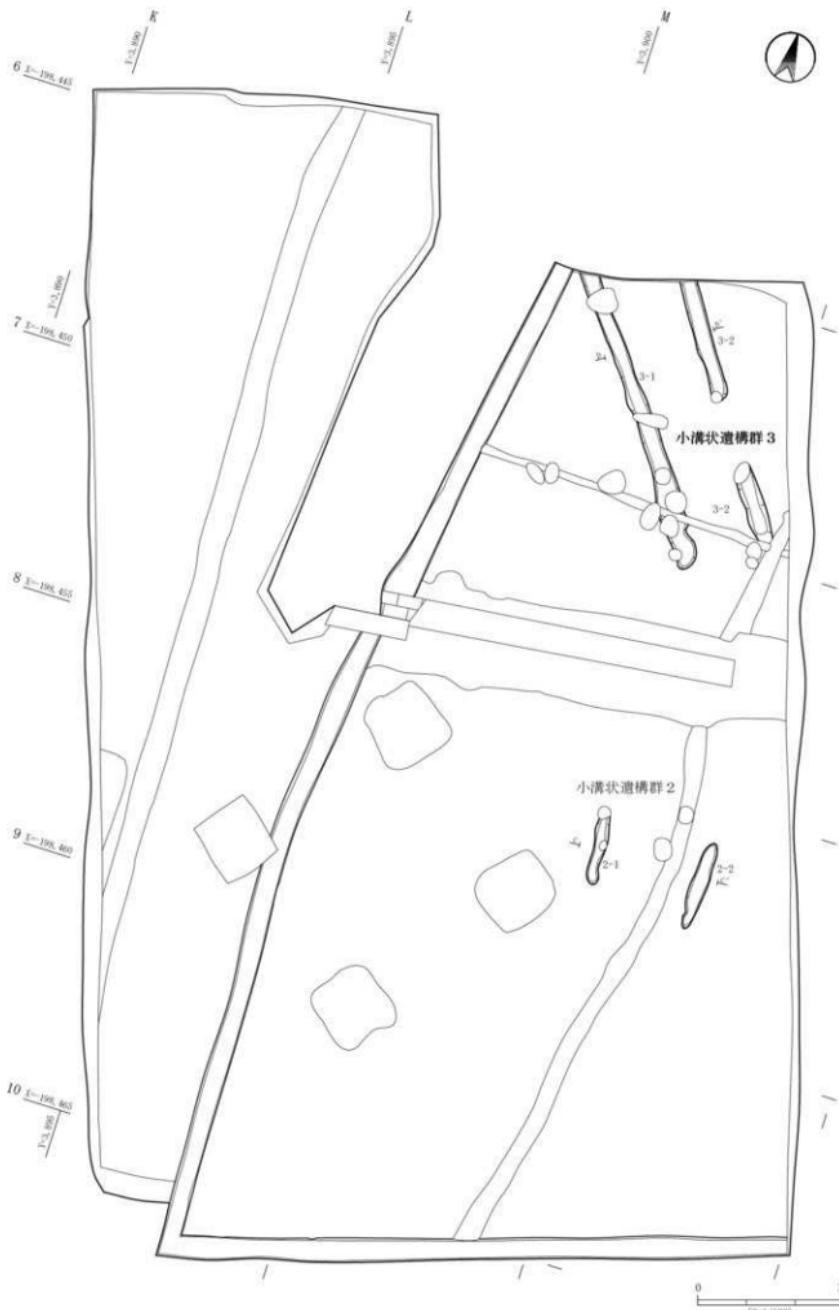
#### 2. 小溝状遺構群

##### 小溝状遺構群2（第8・9図、図版6-1・2）

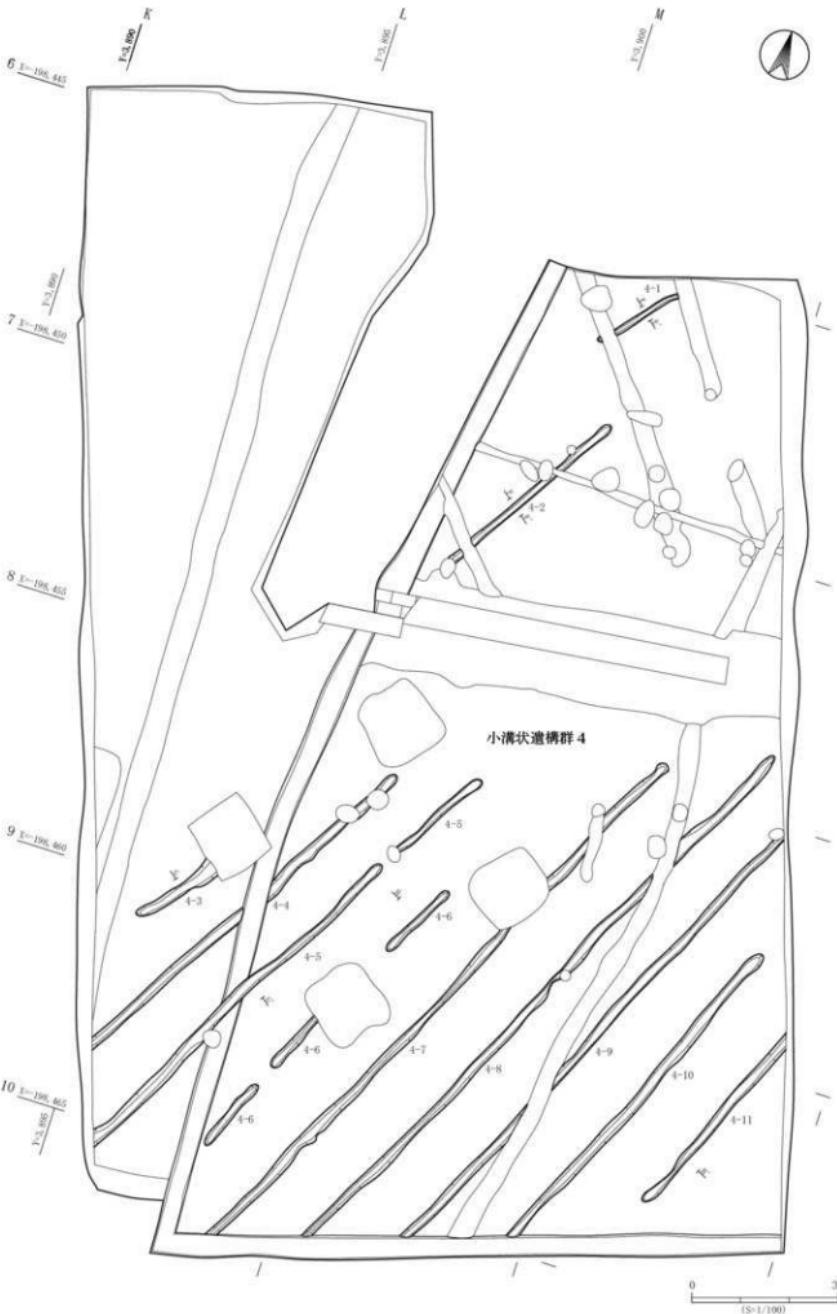
M-N-8グリッドで検出された南北方向の溝跡2条を小溝状遺構群2とした。方向は2-1はN-6°-W、2-2はN-2°-Eであり、平均はN-2°-Wとなる。新旧関係は2-1は4-7を切り、ピットに切られる。調査区内での検出長は1.36～1.85mで、規模は上端幅20～35cm、下端幅10～28cm、深さ4～10cmを測り、断面形は浅いU字形である。堆積土は単層で、2-1の色調は褐色（10YR4/4）、2-2は灰黄褐色（10YR4/2）であり、



第8図 V層上面造構平面図



第9図 V層上面小溝状造構群平面図(1)



第10図 V層上面小溝状造構群平面図(2)

2-1はIV層を主体としてV層を斑文状に少量含み、2-2はIV層とV層が混合する。小溝状遺構の間隔は心々距離で、2.20m程となる。遺物は出土していない。

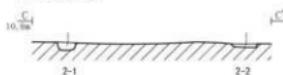
### 小溝状遺構群3（第8・9図、図版6-3）

M・N-6・7グリッドで検出された北西から南東方向の溝跡2条を小溝状遺構群3とした。3-2は途中で分断されるが同一のものと考えられる。方向はN-34°～36°-Wであり、平均はN-35°-Wとなる。新旧関係は、4-1を切り、SD1・2、SX2・3、ピットに切られる。調査区内での検出長は5.61～6.3mで、壁断面の観察から溝跡2条は北側の調査区外に伸びていく。規模は上端幅29～53cm、下端幅22～46cm、深さ2～7cmを測る。断面形は浅い皿形である。堆積土は単層で、色調はにぶい黄褐色(10YR4/3)であり、IV層を主体としてV層を斑文状に少量含む。小溝状遺構の間隔は心々距離で、1.69mとなる。遺物は出土していない。

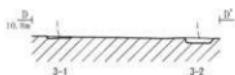
SD1・2-3



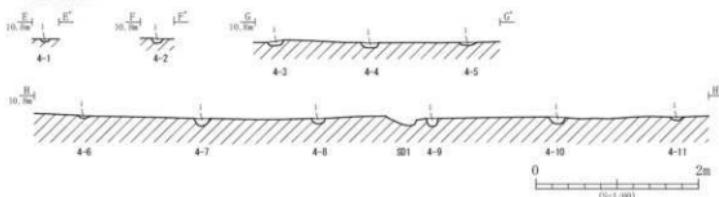
### 小溝状遺構群2



### 小溝状遺構群3



### 小溝状遺構群4



遺構	層位	土色	土性	備考
SD1	1	10YR3-3 剛褐色	粘土質シルト	V解主体。
SD2	1	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	V主体、V解斑文状少量含む。
SD3	1	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	V主体、V解斑文状少量含む。
小溝群2-1	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	V解主体、V解斑文状少量含む。
小溝群2-2	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	V・V解混合上。
小溝群3-1・2	1	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	V解主体、V解斑文状少量含む。
小溝群4-1～9	1	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	V解主体、V解斑文状少量含む。
小溝群4-10・11	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	V・V解混合上。

第11図 V層上面溝跡・小溝状遺構群断面図

**小溝状遺構群4（第8・10図、図版7-1・2）**

L-7~10、M-6~10、N-7~9グリッドで検出された北東から南西方向の溝跡11条を小溝状遺構群4とした。4-5・6は途中で分断されるが同一のものと考えられる。方向はN-23~43°-Eであり、平均はN-33°-Eとなる。新旧関係は、4-1が3に切られ、4-2はSD2に切られる。4-7は2-1に切られ、4-8・9はSD1に切られる。また、4-2・4・5・8・9はピットに切られる。調査区内での検出長は1.83~14.36mで、壁断面の観察から4-4・5・8-10は南西側の調査区外に伸び、4-9・11は北東側の調査区外に伸びていく。規模は上端幅9~40cm、下端幅4~24cm、深さ2~10cmを測る。断面形はU字形であるが、上部が削平されているものでは浅い皿形となる。堆積土は単層であるが、色調は4-1~9にはぶい黄褐色(10YR4/3)、4-10・11は灰黄褐色(10YR4/2)であり、4-1~9はIV層を主体としてV層を斑文状に少量含み、4-10・11はIV層とV層が混合する。小溝状遺構の間隔は心々距離で、1.14~1.60m、平均で1.37mとなる。遺物は出土していない。

**3. 性格不明遺構****S X 1 性格不明遺構（第12・13図、図版8-3）**

M-8グリッドで検出された。平面形は不整楕円形であり、規模は96×45cm、深さ20cmを測る。断面形はU字形であり、壁は緩やかに立ち上がる。底面は若干の凹凸が認められ、南側には楕円形の小穴が2個検出されている。堆積土は単層で、色調は暗褐色(10YR3/3)であり、IV層を主体とする。遺物は検出されていない。

**S X 2 性格不明遺構（第12・13図、図版9-1）**

M-6グリッドで検出された。小溝状遺構群3-1と重複し、新旧関係は3-1を切る。平面形は長楕円形であり、規模は73×25cm、深さ20cmを測る。断面形はU字形であり、壁は緩やかに立ち上がる。底面は平坦であり、北側には楕円形の小穴が1個検出されている。堆積土は単層で、色調は暗褐色(10YR3/3)であり、IV層を主体とする。遺物は検出されていない。

**S X 3 性格不明遺構（第12・13図、図版9-2）**

M-6グリッドで検出された。小溝状遺構群3-1と重複し、新旧関係は3-1を切る。平面形は不整楕円形であり、規模は64×53cm、深さ18cmを測る。断面形はU字形であり、壁は緩やかに立ち上がる。底面は若干の凹凸が認められ、南東側に円形の小穴が1個検出されている。堆積土は単層で、色調は暗褐色(10YR3/3)であり、IV層を主体とする。遺物は検出されていない。

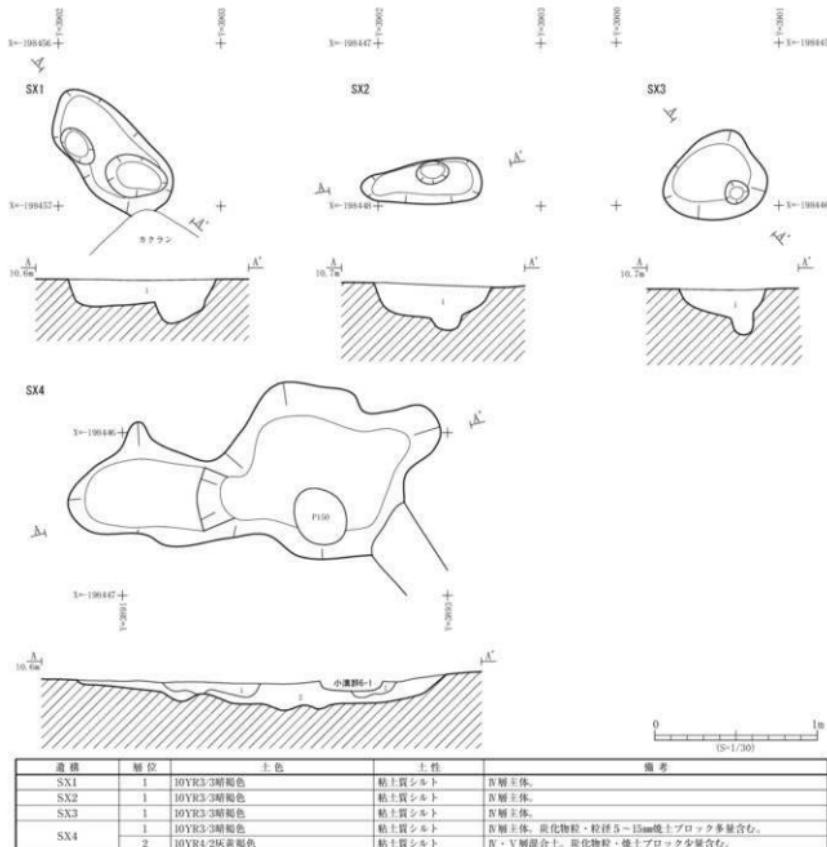
**S X 4 性格不明遺構（第12・13図、図版9-3）**

K-6グリッドで検出された。ピットと重複し、新旧関係はピット1個に切られる。平面形は不整形であり、規模は233×112cm、深さ14cmを測る。断面形は皿形であり、底面には凹凸が認められる。壁は開いて立ち上がる。堆積土は2層に分層され、色調は1層が暗褐色(10YR3/3)、2層は灰黄褐色(10YR4/2)である。1層はIV層を主体として炭化物粒と粒径5~15mmの焼土ブロックを多量に含み、2層はIV層とV層が混合して炭化物粒と焼土粒を少量含む。遺物は検出されていない。

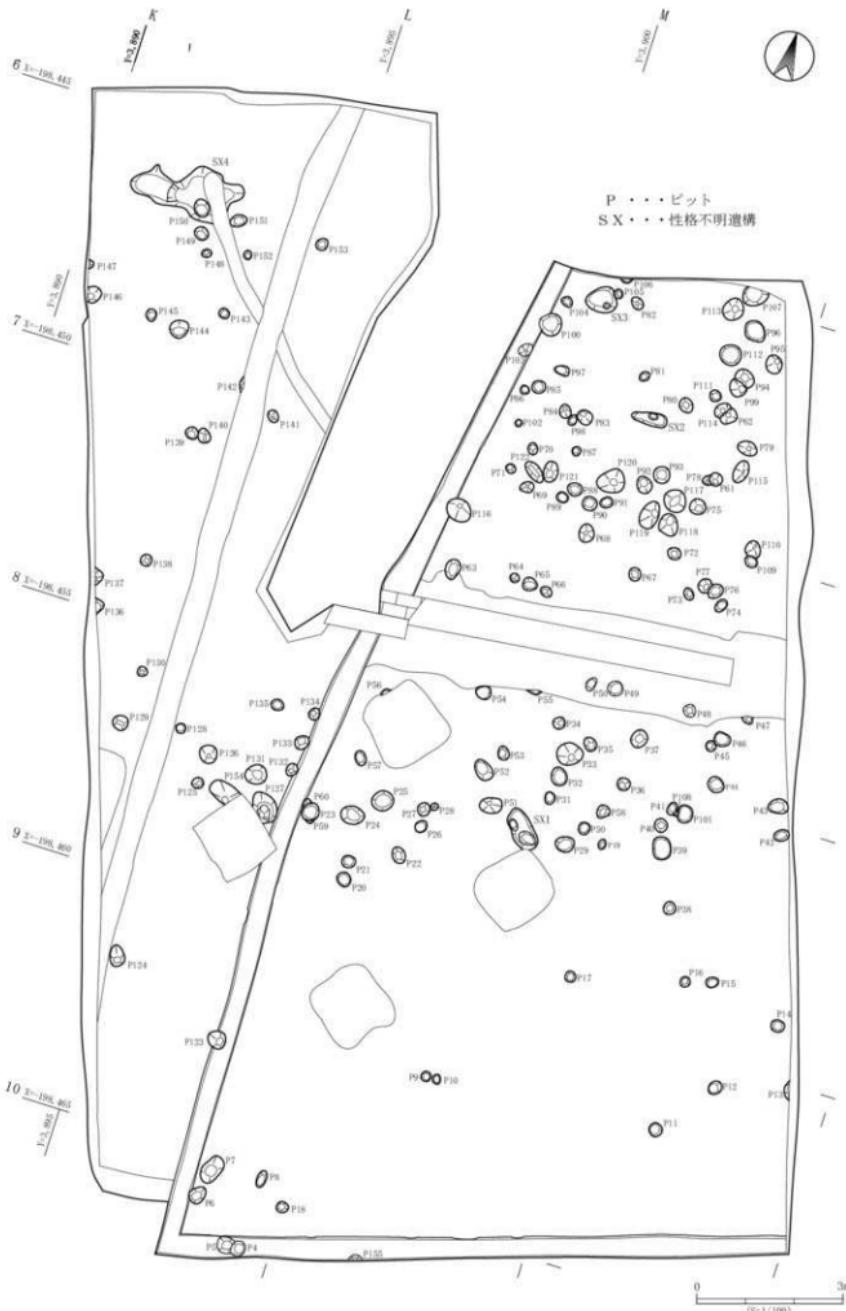
**4. ピット（第13図）**

V層上面で検出されたピットは152個である。これらのピットは調査区中央から北東側のL~N-8グリッドとM-6・7グリッドで分布の集中が認められ、特にM-6グリッドを中心に密集する状況が窺えるが、深さが一定

しない等配列に規則性は認められなかった。新旧関係は、ピットが溝跡、小溝状遺構群、性格不明遺構の全ての遺構を切っている。平面形は円形及び梢円形を基調とし、規模は長径18~68cm、短径12~48cm、深さ6~59cmとばらつきがあるが、平均して長径33cm、短径27cm、深さ21cm前後が主体となる。堆積土は単層であり、色調は暗褐色(10YR3/3)、黄褐色(10YR4/3)を主体とした粘土質シルトであり、IV層を主体とし、V層をブロック状・斑文状に含んでいる。これらのピットには柱痕跡は認められていない。遺物はP22・26・28で土器小片が出土しているが図示できるものではなかった。各ピットの平面形状・規模・堆積土については第3・4表に示したとおりである。なお、平面形・規模が不明なものについては「-」を表記している。



第12図 V層上面性格不明遺構平面・断面図



第13図 V層上面性格不明遺構・ピット平面図

第3表 V層上面ピット観察表（1）

遺構名	グリッド	平面形	規模 (cm)	堆積土		柱根跡	出土遺物・新旧関係 (古→新)		
				長径	短径	深さ			
P4	L-10	円形	32 - 28	26	10YR4.2灰黄褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無 P5 → P4	
P5	L-10	円形	- 33	29	10YR4.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 P5 → P4	
P6	L-10	楕円形	40 - 30	19	10YR4.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無	
P7	L- 9 - 10	楕円形	61 - 37	33	10YR4.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P8	L- 9 - 10	楕円形	36 - 19	18	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無	
P9	M- 9	円形	22 - 20	20	17	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無
P10	M- 9	円形	20 - 17	6	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック合む。	無	
P11	N- 9	円形	26 - 27	12	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P12	N- 9	円形	30 - 27	26	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック合む。	無	
P13	N- 8 - 9	円形	- 24	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無		
P14	N- 8	円形	28 - 25	34	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P15	N- 8	円形	27 - 21	15	10YR4.1灰褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P16	N- 8	円形	22 - 20	15	10YR4.1灰褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P17	M- 8	円形	22 - 22	24	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 小溝状遺構群4 - 8 → P17	
P18	L - M - 10	円形	25 - 22	16	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P19	M- 8	楕円形	23 - 15	13	10YR4.2灰黄褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 小溝状遺構群4 - 8 → P19	
P20	L - 8	円形	30 - 27	15	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P21	L - 8	円形	28 - 24	15	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P22	L - M - 8	楕円形	36 - 27	22	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無 小溝状遺構群4 - 5 → P22	
P23	L - 8	円形	39 - 38	14	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 P59 - 60 → P23	
P24	L - 8	楕円形	49 - 38	13	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無 小溝状遺構群4 - 4 → P24	
P25	L - 8	円形	47 - 42	36	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 小溝状遺構群4 - 4 → P25	
P26	M - 8	円形	28 - 25	25	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P27	M - 8	円形	26 - 25	17	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P28	M - 8	円形	19 - 17	16	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P29	M - 8	円形	37 - 35	35	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P30	M - 8	円形	25 - 23	17	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P31	M - 8	円形	26 - 21	18	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P32	M - 8	楕円形	39 - 30	22	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P33	M - 7 - 8	円形	55 - 48	53	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P34	M - 7	円形	25 - 23	14	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P35	M - 7	円形	31 - 23	11	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P36	M - 8	円形	27 - 25	20	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P37	M - 7	円形	37 - 31	17	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P38	N - 8	円形	26 - 25	11	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P39	M - N - 8	楕円形	47 - 38	19	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	SDI → P29	
P40	M - N - 8	円形	29 - 28	17	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P41	N - 8	楕円形	28 - 19	19	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	P108 → P41	
P42	N - 8	楕円形	33 - 22	19	10YR4.1灰褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無 小溝状遺構群4 - 9 → P42	
P43	N - 7	楕円形	42 - 30	21	10YR4.1灰褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P44	N - 7	円形	35 - 30	13	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック多量含む。	無	
P45	N - 7	円形	22 - 19	15	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック多量含む。	無	
P46	N - 7	円形	33 - 27	12	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層多量含む。	無	
P47	N - 7	-	-	22	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P48	M - 7	円形	27 - 23	15	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P49	M - 7	円形	32 - 31	14	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P50	M - 7	楕円形	32 - 20	15	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無	
P51	M - 8	楕円形	46 - 30	36	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P52	M - 8	楕円形	47 - 32	29	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P53	M - 8	楕円形	31 - 29	20	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P54	M - 7	円形	31 - 29	22	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。灰褐色地盤基盤含む。	無	
P55	M - 7	-	-	7	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック多量含む。	無	
P56	L - 7	-	-	22	18	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック多量含む。	無
P57	L - 8	楕円形	32 - 21	18	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P58	M - 8	円形	28 - 28	31	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P59	L - 8	円形	23 - 18	31	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 小溝状遺構群2 - 1 → P58	
P60	L - 8	円形	22 - 18	18	10YR4.2灰黄褐色	粘土質シルト	柱解土体。	P59 → P22	
P61	M - 6	円形	28 - 26	28	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	P28 → P61	
P62	M - 6	円形	35 - 30	24	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 P114 → P62	
P63	L - 7	楕円形	42 - 31	25	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無 小溝状遺構群4 - 2 → P63	
P64	M - 7	円形	21 - 18	23	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック多量含む。	無	
P65	M - 7	楕円形	31 - 28	20	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P66	M - 7	円形	27 - 20	19	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層ブロック少量含む。	無	
P67	M - 7	円形	28 - 23	9	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無	
P68	M - 7	円形	39 - 31	39	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P69	M - 6 - 7	円形	27 - 22	35	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無	
P70	M - 6	円形	25 - 21	50	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P71	L - 6	円形	21 - 18	23	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P72	M - 7	円形	28 - 24	9	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 小溝状遺構群3 - 1 → P72	
P73	M - 7	楕円形	27 - 19	12	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無	
P74	M - 7	楕円形	31 - 21	12	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無	
P75	M - 6	円形	33 - 30	59	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	
P76	M - 7	円形	34 - 27	14	10YR4.3に古い黃褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様多量含む。	無 P77 → P76	
P77	M - 7	円形	30 - 14	14	10YR2.4暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。V層堆積文様少量含む。	無 P77 → P76	
P78	M - 6	-	-	19	12	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無 P78 → P61
P79	M - 6	楕円形	41 - 28	24	10YR2.3暗褐色	粘土質シルト	柱解土体。	無	

第4表 V層上面ピット観察表 (2)

造構名	ダリッド	平面形	規格 (cm)			堆積土	性状	備考	柱鉄跡	出土遺物・新旧関係 (古→新)
			長径	短径	深さ					
P80	M - 6	円形	33	27	30	10YR4-2断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P81	M - 6	円形	24	17	20	10YR3-3断面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量含む。	無	
P82	M - 6	楕円形	29	20	18	10YR3-4断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P83	M - 6	円形	32	29	16	10YR3-2断面	粘土質シルト	剖面下部。V層ブロック少量化含む。	無	
P84	M - 6	円形	29	22	17	10YR3-3断面	粘土質シルト	剖面下部。砂質味噌灰有り。	無	
P85	L - M - 6	円形	28	27	12	10YR3-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P86	L - 6	円形	19	18	22	10YR3-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P87	M - 6	円形	19	18	11	10YR4-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。砂質味噌灰有り。	無	小溝状遺構群4 → 2 → P87
P88	M - 6	円形	30	27	16	10YR2-4断面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量含む。	無	
P89	M - 6 - 7	円形	25	22	12	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P90	M - 6 - 7	円形	32	32	20	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P91	M - 6	円形	27	22	18	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P92	M - 6	楕円形	38	30	17	10YR3-3断面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量含む。	無	
P93	M - 6	円形	33	33	18	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	小溝状遺構群3 → 1 → P93
P94	M - 6	楕円形	42	27	18	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	P99 → P94
P95	M - 6	円形	38	33	27	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P96	M - 6	円形	44	40	15	10YR2-2断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P97	M - 6	楕円形	32	20	25	10YR4-2に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P98	M - 6	円形	25	17	17	10YR4-2に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P99	M - 6	円形	29	26	26	10YR2-2断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	P99 → P94
P100	L - 6	円形	47	44	27	10YR4-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P101	N - 8	円形	37	30	26	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	SD1 → P108 → P101
P102	L - 6	円形	16	15	21	10YR4-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P103	L - 6	楕円形	32	23	30	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層ブロック少量化含む。	無	
P104	L - M - 6	円形	25	18	16	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層混合。	無	
P105	M - 6	円形	19	19	14	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P106	M - 6	-	22	-	9	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P107	M - N - 5	円形	-	47	19	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P108	N - 8	-	12	14	14	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	P108 → P111 - 101
P109	N - 6 - 7	円形	28	22	27	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。V層ブロック少量化含む。	無	P110 → P109
P110	M - N - 6	円形	37	32	37	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	S02 → P110 → P109
P111	M - 6	円形	24	23	15	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。風化物粒微細含む。	無	小溝状遺構群3 → 2 → P111
P112	M - 6	円形	43	41	12	10YR4-4褐色	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P113	M - 5 - 6	円形	48	42	37	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P114	M - 6	-	37	-	19	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	P114 → P62
P115	M - 6	楕円形	49	30	30	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	小溝状遺構群3 → 2 → P115
P116	L - 7	楕円形	55	47	12	10YR4-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P117	M - 6	円形	47	46	36	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	小溝状遺構群3 → 1 → SD2 → P117
P118	M - 6	円形	48	38	37	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	小溝状遺構群3 → 1 → SD2 → P118
P119	M - 6	円形	60	37	44	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	小溝状遺構群3 → 1 → SD2 → P119
P120	M - 6	楕円形	66	57	34	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	S02 → P120
P121	M - 6	楕円形	43	28	22	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	小溝状遺構群4 → 2 → SD2 → P121
P122	M - 6	楕円形	53	25	22	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	S02 → P121
P123	L - 9	円形	37	35	25	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	小溝状遺構群4 → 5 → P123
P124	L - 9	円形	44	30	26	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P125	L - 8	円形	35	35	17	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P126	L - 8	円形	39	35	27	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P127	L - 8	円形	68	-	38	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。風化物粒微細含む。	無	
P128	K - L - 8	円形	22	20	12	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P129	K - 8	円形	31	30	10	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P130	K - 8	円形	21	20	11	10YR2-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P131	L - 8	円形	43	29	19	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P132	L - 8	円形	27	22	23	10YR4-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P133	L - 8	円形	30	29	22	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P134	L - 8	円形	26	22	8	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P135	L - 8	円形	27	25	11	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P136	K - 7 - 8	-	-	-	42	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P137	K - 7	-	-	12	42	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P138	K - 7	円形	25	23	6	10YR4-4褐色	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P139	K - 7	円形	26	23	8	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層ブロック多量含む。	無	
P140	K - 7	楕円形	32	24	15	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層ブロック多量含む。	無	
P141	K - L - 7	円形	27	20	22	10YR4-1褐色	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P142	K - 6	-	-	-	22	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P143	K - 6	円形	23	20	13	10YR4-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層ブロック多量含む。	無	
P144	K - 6	円形	39	33	29	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P145	K - 6	円形	27	22	10	10YR4-1褐色	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P146	K - 6	円形	37	33	27	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P147	K - 6	-	-	-	8	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P148	K - 6	円形	22	17	8	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P149	K - 6	円形	30	26	15	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P150	K - 6	円形	37	30	12	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。V層ブロック多量含む。	無	
P151	K - 6	楕円形	37	23	16	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P152	K - 6	円形	18	18	15	10YR4-3に古い黃面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状多量含む。	無	
P153	K - 6	円形	26	24	10	10YR2-2灰黄面	粘土質シルト	剖面下部。V層堆積文状少量化含む。	無	
P154	L - 8	楕円形	-	41	38	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	
P155	M - 10	-	-	-	-	10YR2-3断面	粘土質シルト	剖面下部。	無	

第5表 V層上面構造観察表

( ) 現存

遺構名	番号	範囲(cm)				方向	グリッド	新旧関係(古→新)	出土遺物
		全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD1	(1610)	35~55	19~38	5~11	N~6°~E	M~7~10, N~6~8	小溝群4~9, 小溝群3~2→SD2→SD1→E' ( )		
SD2	(670)	13~21	4~12	3~5	N~88°~W	L~N~6	小溝群4~2, 小溝群3~1~2→SD2→SD1→E' ( )		
SD3	(390)	73~98	67~79	4~6	N~28°~E	K~7°R, L~7			
小溝群	1	136	21~30	10~20	6~10	N~6°~W	M~8	小溝群4~7→小溝群2~1→E' ( )	
2	2	185	30~35	14~28	4~8	N~2°~E	N~8		
小溝群	1	(630)	29~53	25~46	2~6	N~36°~W	M~6~7	小溝群4~1→小溝群3~1→SD2, SX2~3, E' ( )	
3	2	(561)	30~42	22~28	4~7	N~34°~W	M~5~6, N~7	小溝群4~1~2→小溝群3~1→SD2→SD1→E' ( )	
小溝状 遺構群	1	(189)	11~15	5~7	2~4	N~43°~E	M~7	小溝群4~1~2→SD2→E' ( )	
	2	(424)	15~17	7~10	2~5	N~32°~E	L~7, M~6~7	小溝群4~2~3→SD2→E' ( )	
	3	(183)	20~40	9~24	5~7	N~41°~E	L~8~9		
	4	(833)	21~25	9~16	3~9	N~30°~E	L~8~9	小溝群4~4~E' ( )	
	5	(1065)	13~27	6~23	3~6	N~29°~E	L~8~9, M~8	小溝群4~5~E' ( )	
	6	(719)	14~20	6~13	2~3	N~26°~E	L~9, M~8		
	7	(1241)	12~29	6~15	3~8	N~26°~E	L~9~10, M~7~9	小溝群4~7~8→小溝群2~1	
	8	(1436)	9~30	4~23	3~10	N~26°~E	M~8~10, N~7~8	小溝群4~8~9→SD1→E' ( )	
	9	(1190)	16~21	7~15	3~9	N~25°~E	M~9~10, N~8	小溝群4~9~10→SD1→E' ( )	
	10	(828)	10~27	6~18	2~7	N~24°~E	M~9, N~8~9		
	11	(437)	12~23	5~17	4~5	N~23°~E	N~8~9		
遺構名	平面形	範囲(cm)				グリッド	出土遺物・新旧関係		出土遺物
		長径	短径	深さ					
SX1	不整格円形	96	45	20		M~8			
SX2	長格円形	73	25	20		M~6	小溝群3~1→SX2		
SX3	不整格円形	64	53	18		M~6	小溝群3~1→SX3		
SX4	不整形	233	112	14		K~6	SX4→E' ( )		

#### 第4節 出土遺物

今回の調査により出土した遺物総量は合計65点である。主となる遺物は古代の土師器類であり、いずれも細片で摩滅が著しい。その他に繩文土器2点、石器が4点、須恵器壺1点が出土している。第14図では小溝状遺構群6及びグリッドから検出された遺物を掲載した。ここでは種別毎に説明する。なお、出土遺構及び層位については遺物観察表を参照されたい。

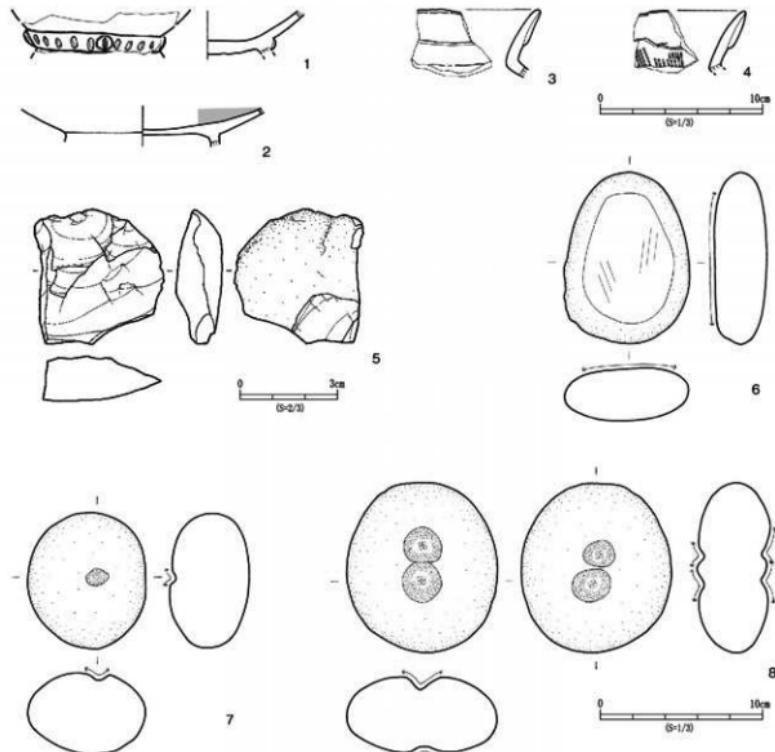
1は繩文土器・台付鉢の台部である。台部には4単位の有刻ボタン状貼付文をもち、円形の刺突文が施される。繩文時代晩期に属するものと考えられ、山口遺跡II(1984 仙台市教育委員会)で報告された3号河川跡出土土器(第102図5)と類似するものであろう。

2は土師器高台付皿であり、摩滅が著しい。外面はナデが施され、内面は黒色処理およびミガキが施される。

3・4は土師器壺であり、複合口縁を有するものである。摩滅が著しく、4の外面にハケメが施される。

5は二次加工のある洞片である。珪質頁岩を素材とし、裏面に自然面を大きく残す。二次加工は主要剥離面側に打面部を除去するような状態で施されている。

6~8は砾石器である。6は安山岩、7・8はデイサイトの扁平蝶を素材としたもので、6には磨面、7・8には凹みが観察されるものである。



（）現存、（）推定

No.	登録番号	出土位置	層位	種別	口径×器高×底径(cm)	外 形	内 形	備 考	写真図版
1	A-1	L-5Gr.	IV層	縄文晚期 台付鉢	- × (2.5) × -	有割ボタン状腹付支、円形側突支	ミガキ	脚部剥離。	10-2-1
2	C-1	小渕群 6-3 1層	上細器 高台付鉢	- × (2.0) × -	ナデ		ミガキ、黑色処理	摩滅著しい。	10-2-2
3	C-2	L-9Gr.	III層	上細器 細	-	不明		摩滅著しい。	10-2-3
4	C-3	N-8Gr.	III層	上細器 細	-	ハケヌ	不明	摩滅著しい。	10-2-4

No.	登録番号	出土位置	層位	種別	石 質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真図版
5	Ka-h-1	N-9Gr.	二次加工のある調片	珪質頁岩	(54.3)	51.3	17.9	(51.0)	下端部欠損。		10-2-5
6	Ke-a-1	N-8Gr.	安山岩	安山岩	105.5	77.5	32.5	375.0	器1。		10-2-6
7	Kc-b-1	N-8Gr.	礁石器、円石	デイサイト	84.0	73.0	49.5	392.0	器1。		10-2-7
8	Kc-b-2	M-9Gr.	礁石器、円石	デイサイト	105.0	93.0	46.0	670.0	器2+2。		10-2-8

第14図 出土遺物

## 第VI章 まとめ

今回の第17次調査地区は、大野田古墳群全体の範囲から見ると中心からはやや北側に位置している。調査ではⅢ～V層上面で遺構が確認され、Ⅲ層上面ではピット3個、IV層上面では小溝状遺構群3群、V層上面では溝跡3条、小溝状遺構群3群、性格不明遺構4基、ピット152個が検出された。ここではⅢ・IV層上面で検出された遺構とV層上面で検出された遺構間の新旧関係、ならびに近隣の調査結果を含めた成果について述べる。

### III・IV層上面で検出された遺構について

Ⅲ層上面で検出された遺構はピット3個であり、堆積土はⅡ層を主体としている。これらのピットには柱痕跡は認められず、規則的な配置も認められないものであった。さらに、このピットからは出土遺物はなく時期を判断することができなかった。しかし、周辺の調査例からはⅡ層上面において中世主要道路跡（推定「奥大道」）などの遺構群が確認され、今回の調査では観察されていないが、周辺地域では基本層Ⅲ層に10世紀前半に降灰したとされる灰白色火山灰（十和田A火山灰）堆積が確認されている。これらの点からⅢ層上面のピットは火山灰の降灰以降の平安期から中世の遺構と考えられる。

IV層上面からは耕作痕と考えられる小溝状遺構群が調査区東側から1群、調査区西側からは壁断面の観察からIV層上面の遺構とした2群の合わせて3群が検出された。小溝状遺構群1は上面が削平されており、検出された溝跡はいずれも浅い。この小溝状遺構群は北東から南西に列をなし、さらに南側の調査区域外に連続する可能性がある。一方、小溝状遺構群5・6は遺構確認面はV層上面であるが、壁断面の観察から基本層IV層上面まで立ち上がることが確認されたことから、IV層上面の遺構群に含めることとした。

### V層上面で検出された遺構間の新旧関係について

V層上面で検出された遺構は、上述のIV層上面に帰属することが判明した小溝状遺構群の2群を除くと、溝跡（SD 1～3）、小溝状遺構群2～4、性格不明遺構（SX 1～4）、ピット（152個）である。これらの遺構の間では切り合いから新旧関係が明らかとされた遺構が認められた。まず、ピットと溝跡、小溝状遺構群の重複関係を見ると、調査区のほぼ全域に展開するピットが溝跡、小溝状遺構群を切って構築されていることが確認された。この新旧関係から、ピットが全体の遺構群の中では最も新しい時期の遺構と考えられる。これらのピットは調査区北東側で密集する状況が窺えるが、柱痕跡は確認されなかった。また、深さが一定しない等配列も含めて規則性は認められず、建物跡や柱穴列の存在を示すものではなかった。

次に、溝跡と小溝状遺構群の新旧関係を見ると、SD 1・2が小溝状遺構群3・4を切り、溝跡が小溝状遺構群より新しいことが確認された。このことから溝跡は耕作痕と考えられる小溝状遺構群より後の遺構と推定される。なお、調査区西側のSD 3はIV層上面に帰属する小溝状遺構群5より古い段階の遺構であり、小溝状遺構群2は溝跡と重複しないことから関係は不明であるが、小溝状遺構群の新旧関係から小溝状遺構群2・3が小溝状遺構群4よりも新しいことが確認されていることから、小溝状遺構群4が今回の調査の中でもっとも古い遺構と考えられる。

### 近隣調査との成果

第15図は、第17次調査の東側近接地で調査が行われた第8・14次調査と17次調査のV層上面検出遺構を図示したものである。第8次調査では、竪穴住居跡1軒、溝跡ならびに小溝状遺構群とピットが検出され、第14次調査では竪穴住居跡4軒、大野田官衙遺跡の南辺の大溝ならびに小溝状遺構群とピットが確認されている。

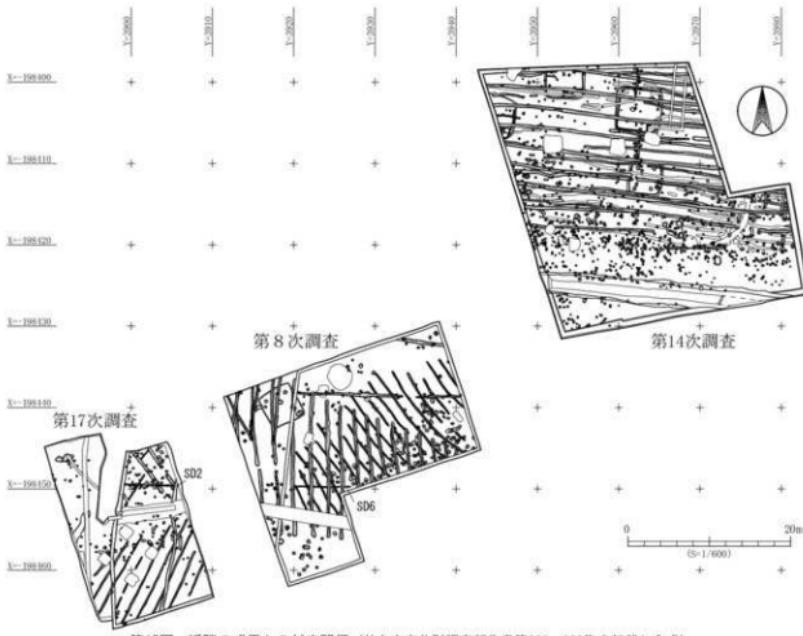
まず、ここで小溝状遺構群の方向性と新旧関係について東側の調査区から見てみる。第14次調査では、調査区南側で検出された大野田官衙遺跡の大溝の北側に東西方向を主体とする小溝状遺構群が広い範囲で展開している。また、第8次調査では南北方向と北西から南東方向を主とする小溝状遺構群が検出され、新旧関係は南北方向の小溝

状遺構群が北西から南東方向の小溝状遺構群よりも新しいことが確認された。一方で今回の第17次調査では南北を中心とする小溝状遺構群が小溝状遺構群2、北西から南東を主とする小溝状遺構群3、北東から南西を主とする小溝状遺構群4が検出されている。新旧関係は南北方向の小溝状遺構群2と北東から南西方向の小溝状遺構群3が北東から南西方向の小溝状遺構群4を切っていることが確認された。これらの切り合い関係を総合すると第8・17次調査で南北方向を主とする小溝状遺構群が新しい段階の耕作痕と考えられる。

次に小溝状遺構群の配置を見ると、第14次調査の大野田官衙跡の大溝の北側では東西方向を主とする小溝状遺構群が広く展開しており、南側の第8・17次調査では南北方向あるいは真北方向から概ね45°前後東西に傾いた小溝状遺構群が配置されている。このことからこの大溝を境として小溝状遺構群の配置が大きく変わることが考えられる。第8・17次調査の小溝状遺構群の配置では、南北方向の小溝状遺構群は第8次調査から第17次調査の東側にかけて検出され、北西から南東方向の小溝状遺構群は第8次調査と第17次調査の北側に確認されている。一方で、北東から南西方向の小溝状遺構群は第17次調査において新たな方向性の異なる小溝状遺構群として確認されたものである。この小溝状遺構群は第8次調査では確認されていないことから、第8・17次調査区の間で再度小溝状遺構群の配置が変わっていることが推測される。

溝跡は、第8次調査で検出されたSD6と第17次調査のSD2は東西方向に伸びる溝跡であり、分断されているが形態・配置などの特徴から、同時期に存続した溝跡の可能性がある。

また、今回の調査では竪穴住居跡及び古墳は発見されなかった。竪穴住居跡は第8・14次調査で古墳時代前期の竪穴住居跡が5軒が確認され、この竪穴住居跡の分布から第17次調査区の北側に集落が展開するものと考えられる。なお、今回の調査地点の北西側では統いて第18次調査が行われる予定であり、さらに周辺域で行われる調査によつて、古墳時代前期の集落構成、さらに古墳の発見等により大野田古墳群の分布域が明らかになると推察される。



第15図 近隣の成果との対応関係（仙台市文化財調査報告書第290・339集を転載し合成）

## 引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 1981 「仙台市文化財調査報告書第34集 六反田遺跡発掘調査報告書」
- 仙台市教育委員会 1984 「仙台市文化財調査報告書第61集 山口遺跡Ⅱ－仙台市体育館建設予定地－」
- 仙台市教育委員会 1987 「仙台市文化財調査報告書第193集 大野田古墳群 春日社古墳・鳥居塚古墳」
- 仙台市教育委員会 1993 「仙台市文化財調査報告書第173集 下ノ内遺跡－第4次発掘調査報告書－」
- 辻 秀人 1994 「東北南部の古墳出現期の様相」『東日本の古墳の出現』山川出版
- 仙台市教育委員会 2000a 「仙台市文化財調査報告書第243集 大野田古墳群・王ノ墳遺跡・六反田遺跡－仙台市宮沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ－」
- 仙台市教育委員会 2000b 「仙台市文化財調査報告書第249集 王ノ墳遺跡－都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ－」
- 仙台市教育委員会 2004 「仙台市大野田古墳群」「平成16年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨」宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2005a 「仙台市文化財調査報告書第290集 大野田古墳群－第8次発掘調査報告書－」
- 仙台市教育委員会 2005b 「仙台市文化財調査報告書第291集 大野田古墳群－第9次発掘調査報告書－」
- 仙台市教育委員会 2006 「仙台市宮沢駅周辺遺跡群」「平成18年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨」宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2008a 「大野田古墳群他－官衙関連遺構－」「第34回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－」古代城柵官衙検討会
- 仙台市教育委員会 2008b 「仙台市文化財調査報告書第319集 大野田古墳群－第13次発掘調査報告書－」
- 仙台市教育委員会 2008c 「仙台市 春日社古墳」「平成20年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨」宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2008d 「六反田遺跡・大野田古墳群」「平成20年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨」宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2009a 「(仮称) 大野田官衙遺跡」「第35回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－」古代城柵官衙検討会
- 仙台市教育委員会 2009b 「仙台市文化財調査報告書第339集 大野田古墳群－第14次発掘調査報告書－」



# 写 真 図 版





1. 調査区全景（南から）



2. 3層上面調査区東側完掘全貌（南から）

写真図版1 全景写真(1)



1. 菁層上面調査区東側完掘全景（北から）



2. 小溝状遺構群1全景（南から）

写真図版2 全景写真(2)



1. V層上面完掘全景(南から)



2. V層上面調査区東側完掘全景(南から)

写真図版3 全景写真(3)



1. V削上面調査区東側完掘全景(北から)



2. V削上面調査区西側完掘全景(北から)

写真図版 4 全景写真(4)



1. SD1全景（北から）



2. SD2全景（東から）

写真図版5 溝跡



1. 小溝状遺構群2全景（北から）



2. 小溝状遺構群2・SD1土層断面（南から）



3. 小溝状遺構群3全景（北西から）

写真図版6 小溝状遺構群（1）



1. 小溝状遺構群4全景（北東から）



2. 小溝状遺構群4-3～5土層断面（南西から）



3. 小溝状遺構群5全景（北東から）

写真図版7 小溝状遺構群（2）



1. 小溝状遺構群6全景（北西から）



2. 小溝状遺構群6土層断面（西から）

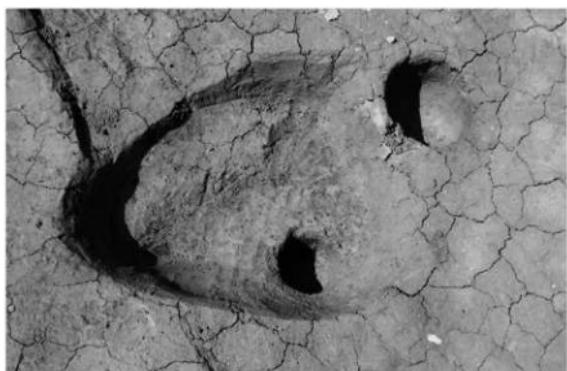


3. SX1全景（北東から）

写真図版 8 小溝状遺構群（3）・性格不明遺構（1）



1. SX2全景（北から）



2. SX3全景（南から）

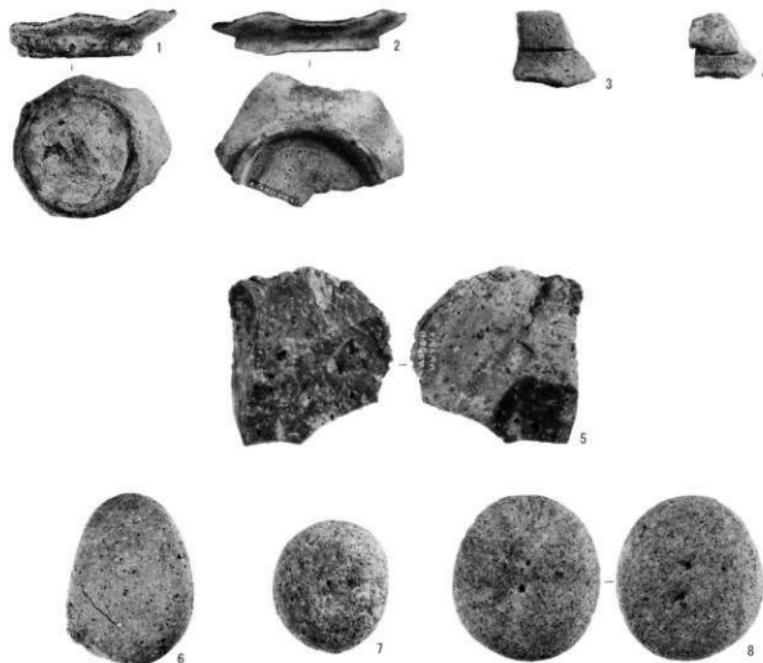


3. SX4全景（北から）

写真図版9 性格不明造構（2）



1. 調査区南壁土層断面（北から）



2. 出土遺物

写真図版10 土層断面・出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	おおのだこふんぐん							
書名	大野田古墳群							
副書名	第17次発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第354集							
編著者名	平間亮輔・追和幸							
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）							
所在地	〒980-8761 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 TEL 022-214-8894							
発行年月日	2009年12月18日							
所収遺跡名	所在地	コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	***	***		m <sup>2</sup>	
大野田古墳群	宮城県仙台市宮沢駅周辺土地区画整理事業地内27街区 5・6画地 (太白区大野田字宮脇)	仙台市 C-054 04100	仙台市 宮城県 01361	38° 12' 44"	140° 52' 40"	20090507 20090703	305m <sup>2</sup>	仙台市たんばばホーム移転 改築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大野田古墳群	古墳	古墳時代以降	溝 小溝状遺構群 ピット	跡 6群29条 155個	3条	土師器（古墳時代前期） 土器・石器（縄文時代）		

仙台市文化財調査報告書第354集

## 大野田古墳群

- 第17次発掘調査報告書 -

2009年12月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区二日町1番1号

仙台市教育委員会文化財課

TEL 022-214-8894

印刷 (有)平電子印刷所

福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地

TEL 0246-23-9051

